7. 播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・処置などの合併症の発症率

播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・処置などの合併症の患者数と発症率を集計しました。

DPC病名と入院契機が「同一」か「異なる」に分類して集計しております。

「同一」はある病気の診療目的で入院し、その病気の治療を行なったということを表し「異なる」はある病気の診療目的で入院したが、併発していた、もしくは入院中に違う病気が発症したことにより、その治療が主となってしまった場合を表します。

定義

最も医療資源を投入した傷病名が播種性血管内凝固(DPCコード:130100)、敗血症(DPCコード:180010)、その他真菌症(DPCコード:180035)、手術・術後の合併症(DPCコード:180040)について患者数をカウントし、全入院患者に対する発症率を掲載する。(DPC6桁分類とする) 発症率はそれぞれの患者数÷全入院患者数×100とし、少数は2桁まで掲載する。

一入院(三日以内再入院を除く)1カウントとする。

用語の説明

DPC6桁分類(DPCコード)

14桁あるDPCコードのうち、上6桁で病名が表されるコードです。DPCコード6桁で表示される場合は病名による分類を表しており、医療行為などは含まれておりません。

DIC (播種性血管内凝固症候群)

感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。

敗血症

感染症によって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。治療に大きな医療資源が投入されるため、該当するDPCで高額な点数が設定されています。

真菌症

真菌による感染症です。

手術・処置などの合併症

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。

合併症は、どのような術式でもどのような患者さんでも、一定の確率で起こり得るものなので、医療ミスとは異なります。

入院契機

DPCコードにて分類される包括請求の対象となる病気(DPC病名)とは別に、入院の契機となった病気(入院契機病名)がそれぞれの入院患者さんにつけられています。DPC病名と入院契機病名が「同一」か「異なる」かにより分けて集計しています。「同一」ということは、ある病気の診療目的で入院して、その病気の治療を行ったことを表します。一方「異なる」ということは、ある病気の診療目的で入院したが、併発していた、もしくは入院中に発症した違う病気(この指標の場合は、DIC(播種性血管内凝固症候群)や敗血症、手術・処置等の合併症)による治療が主だったものになってしまったことを表します。